

第13回宇宙開発戦略専門調査会資料

資料3-4

商用通信衛星市場の動向

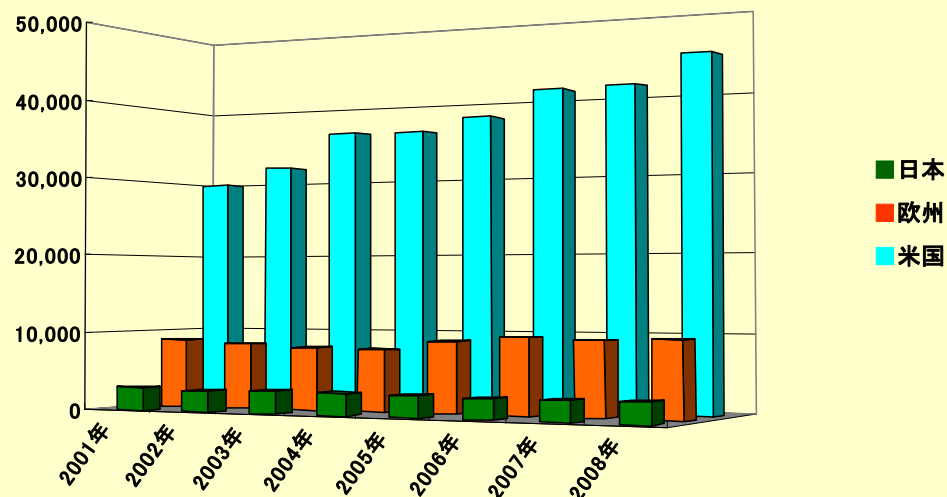
2011年4月25日
三菱電機株式会社
宇宙システム事業部

日米欧の宇宙機器関連予算

- 我が国の宇宙関連予算規模
米国の約6%、欧州の約30%
- 我が国の宇宙機器産業成長に向け、海外需要取り込みが必須
(官需予算では衛星打ち上げ年間3機程度)

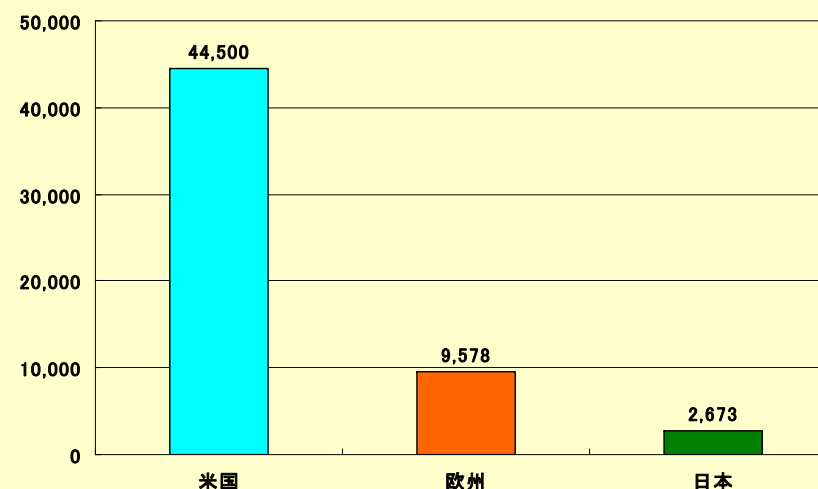
2001～2008年日米欧の宇宙関連予算

単位:億円



2008年日米欧の宇宙関連予算

単位:億円

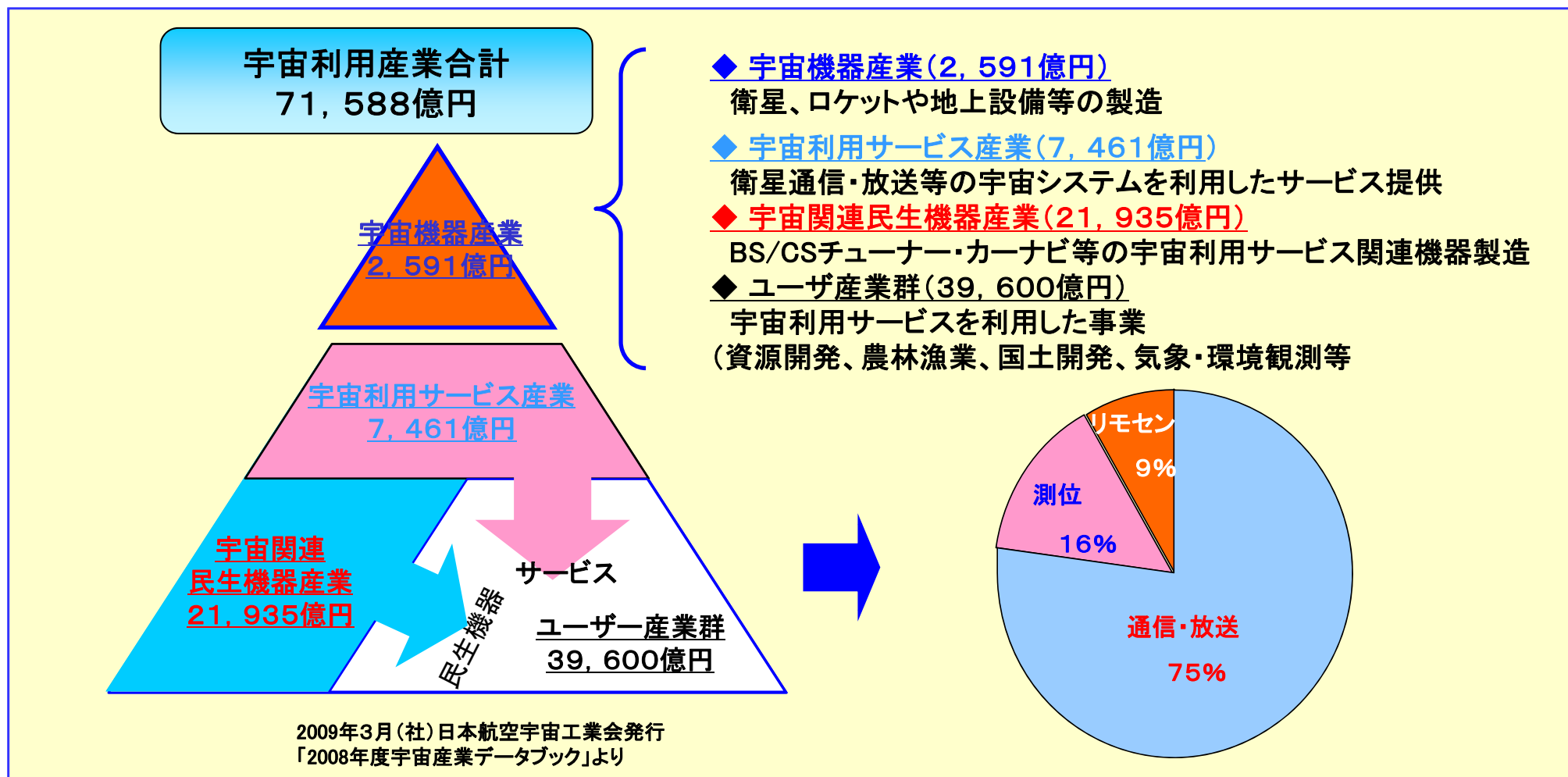


2009年3月(社)日本航空宇宙工業会発行
「2008度宇宙産業データブック」より

レートは、1ドル=103.5円
1ユーロ=152円で換算

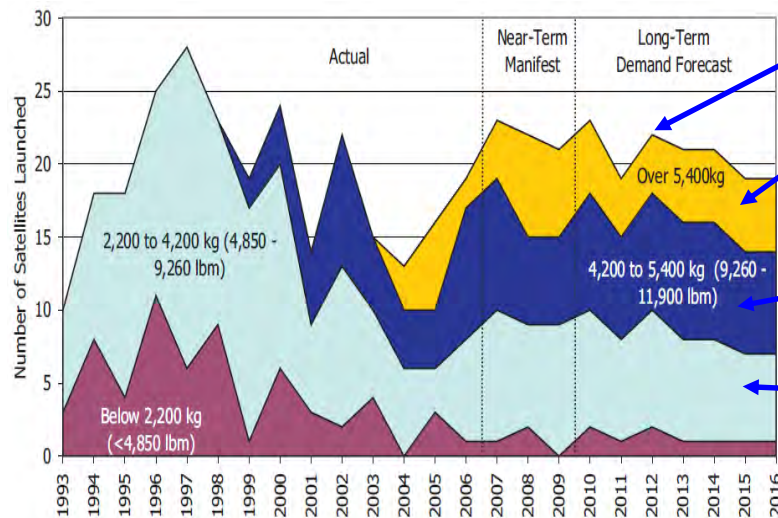
我が国の宇宙産業市場の構成

■ ユーザー産業群の75%は通信・放送



グローバル商用衛星(通信・観測)市場の構成

■ 通信衛星市場は10年で21.6B\$の需要



将来予測では20~25機

dry~3500kg
発生電力~25kW

dry~2500kg
発生電力~13kW

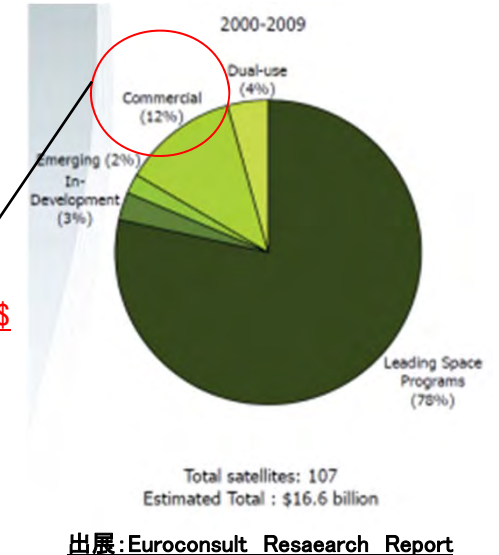
dry~1800kg
発生電力~8kW



売上高21.6B\$

■ 観測衛星は10年で2B\$ で1/10程度の市場規模

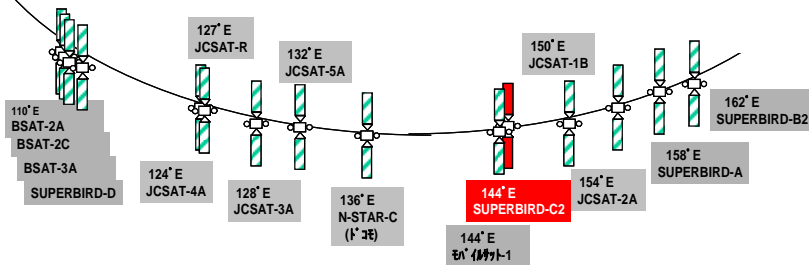
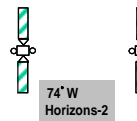
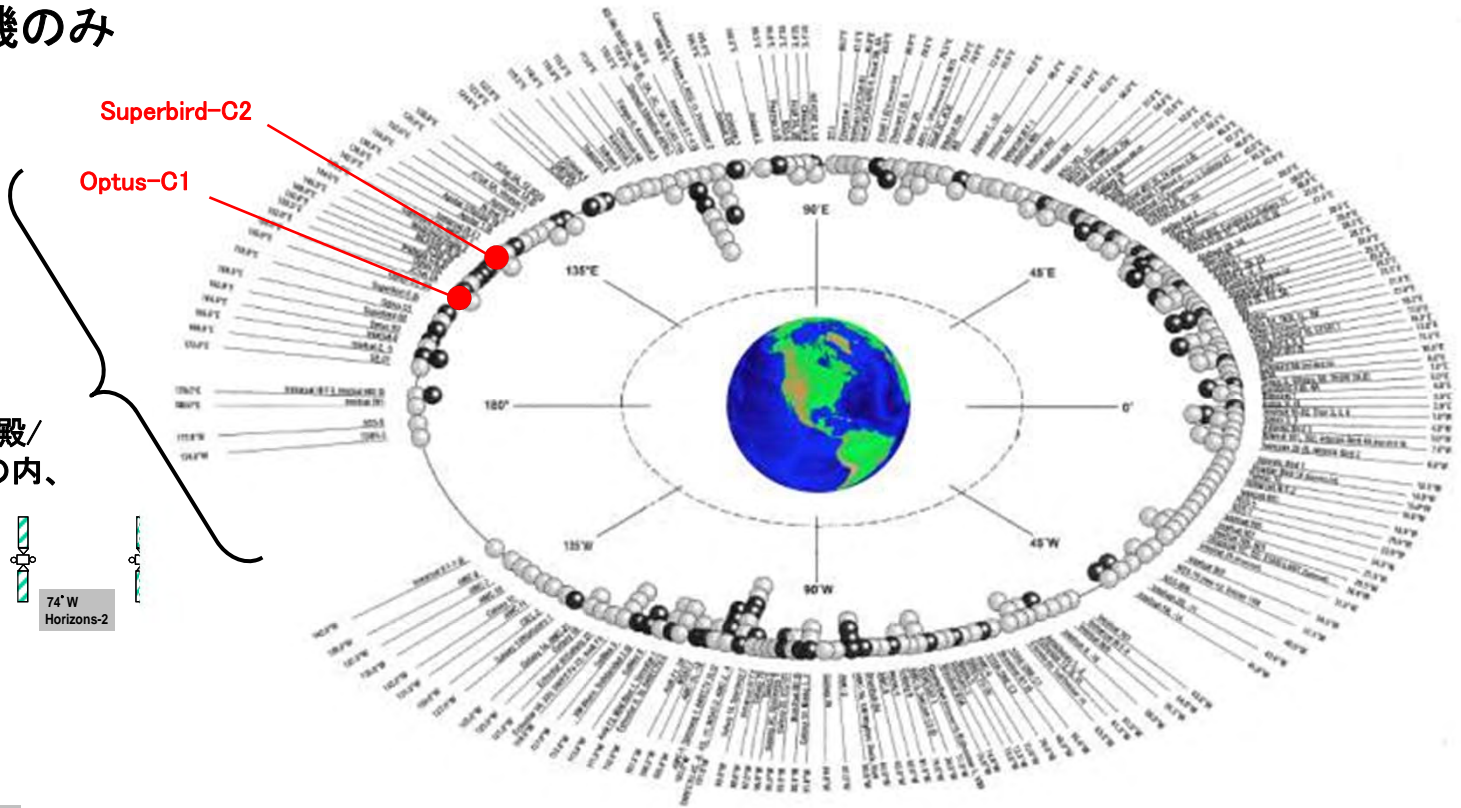
Commercial (商業系 / GeoEye, DigitalGlobe, Spot Image 他)は、約163億円/年であり、商用通信衛星市場の売上総規模(1,770億円/年)と比較すると、1/10程度の規模



商用通信衛星市場における日本シェア

■運用されている294機中、日本企業(当社)が主契約者となった衛星は 米国製Optus-C1(豪)、日本製Superbird-C2の2機のみ

・日本の衛星通信事業者(スカパーJSAT殿/B-SAT殿 等)の保有する17機の衛星の内、Superbird-C2以外すべてが米国製



出展: BSS: Boeing Satellite Systems (2010年6月30日版)